

# 縄文中期の大型集落を支えた海と山

—東京湾東岸最奥部の中期中葉拠点集落の調査成果から—

上守 秀明

13,000年前	時期区分	土器型式	集落のようす	貝塚のようす	
9,500年前	早期	+	0期	住居なし。 記念層状か所	なし
	中期	a 黒糸文	1期	住居高らわれるが、 ごく少ない	なし
		b 法蘭文			
6,000年前	後葉	麻織文	2期	伊六郎多敷。 住居少ないが 天神台に大型住居	伊六郎内の小規模な集 落に貝塚多量形成
5,000年前	前期	初期 a 花袋下層	3期	住居やや多くなる。 記念層のみふきい	なし
		後葉 b 黒山			
	中期 c 黒浜				
	後葉 d 踏碇・踏碇				
	初期 e 五横コ台				ほとんどなし
中期	前期 a 阿玉台Ⅰ・Ⅱ				
	後葉 b 加曾利Ⅰ・Ⅱ	4期	定住型の大きな集落 ができる	大きな貝塚ができる	
4,000年前	後葉 a 加曾利Ⅲ		大集落出現。 小集団で住	遺構内に小貝塚 一帯で大きな集 落・貝塚ができる	
	初期 b 舟名寺	5期			
	後葉 a 船之内	6期	定住型の大きな集落 ができる	大きな貝塚ができる	
3,000年前	中期	b 加曾利 B1			
		a 加曾利 B2・9			
	後葉 b 後瀬安行	7期	大きな集落の一部が つづく	大きな貝塚の一部が つづく	
	前期 c 後瀬安行				
後葉	前期 d 千綱・笠海	8期	集落維持し、記念層 のふきい	なし	

## 1 大集落の形成時期

- ・ 中期中葉
- 約4,700年前

## ・ 貝塚の豊富な情報量

海と山との関わりを知るのに  
もっとも適した時期

## ・ 全国的にも大きな集落 が形成された時期



千葉市有吉北貝塚の全景



同貝塚の北斜面貝層

## 2 大集落の特徴

### (1) 3つの特徴

#### ・「集中居住」

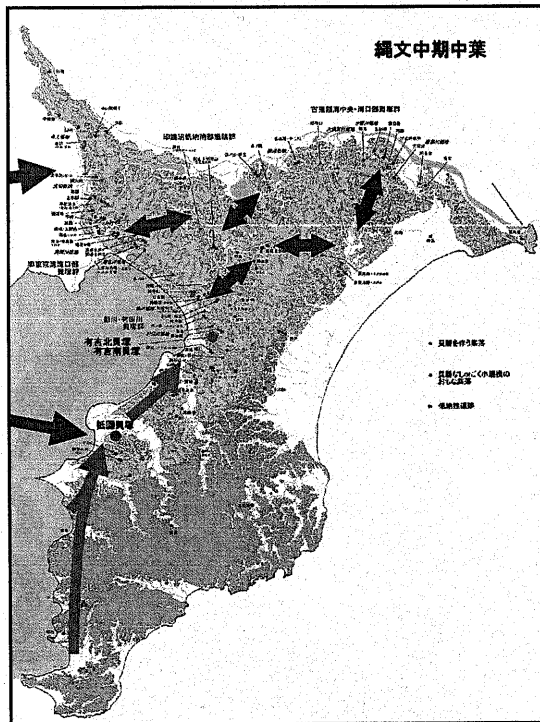
たくさんの人(世帯)が集まって生活

#### ・「通年定住」

一年中同じ場所で生活(しかも長期的)

#### ・「大型貝塚の形成」

夥しい量の貝が台地上の集落に運び込まれた



### (2) 東京東岸湾奥部の 2つの集落群

#### 「奥東京湾湾口部」

#### 「都川・村田川」

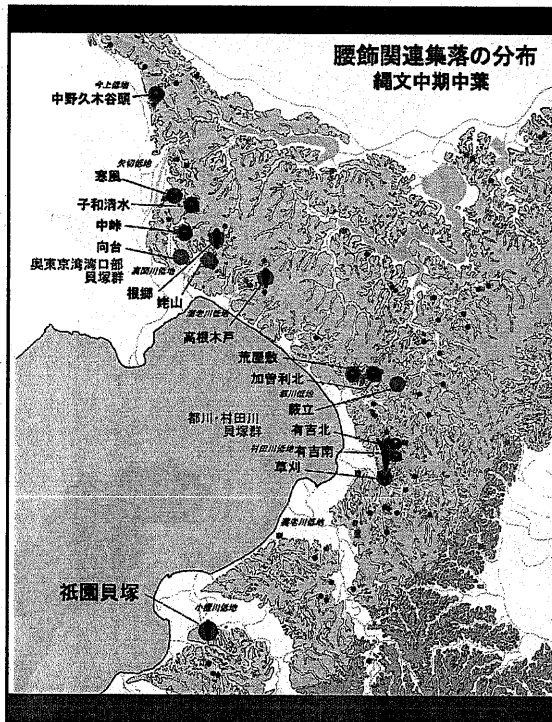
・集落の存続期間・生産活動・かたち  
などがよく似た集落が多数集中

・「よく似た」=つながりが強い

※ 周辺地域との関係

・「古鬼怒湾」・「印旛沼南部」との  
関係

・北端と南端が西関東との接点に  
なった



### (3) 立地の特徴

#### ①海・山の両方の資源が活用しやすい立地

- ・東京湾東岸最奥部に立地  
→ 日常的に行き来が可能な場所に生産性の高い河口干潟・浅瀬が存在

- ・低平&広大な下総台地に立地  
→ 集落背後に広大な森林(里山)が存在  
(集落の周囲に手入れをした雑木林が広がる景観→里山景観を想定)

#### ②湧水が多い地域に立地

## 3 中期大集落の縄文人と海・山との関わり

### (1) 資源利用の特徴(2つの側面)

①主要な食材 → 持続的に大量利用できるものに強く依存

- ・海(河口干潟・浅瀬) → イボキサゴ・ハマグリ・イワシなどの小魚

- ・山(コナラ亜属優先の落葉樹林帯)

- コナラ・クルミ・クリ・ヤマイモ

- イノシシ・シカなど有用な食材が豊富

- 薪炭材・建築材としても利用

②あらゆる食材を利用 → 大量利用食材に依存する一方で多くの食材を利用

- 土器の使用 = 食材として利用可能ものが格段に増加

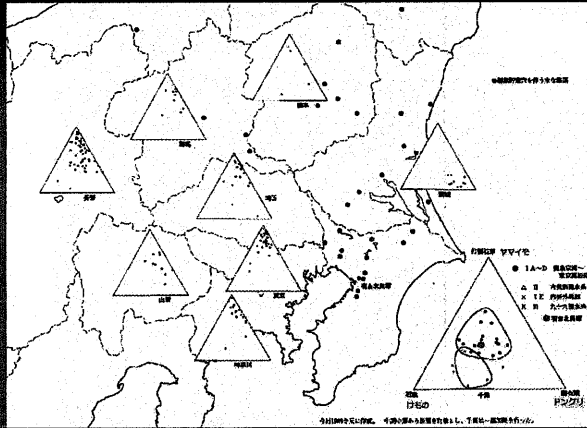
- 「究極の雑食動物」

### (2) 生産活動と食材を知る研究

様々な方法を組み合わせて考える → アイデアと分析方法次第で大きな成果

①貝や動物・魚骨の分析

- 網目の細かいフルイで回収した貝や骨を分類し、種名や大きさを調べる



### ②道具や施設の分析

・石器組成(打製石斧と磨石・石鏃)と群集貯蔵穴

打製石斧:根茎類の利用

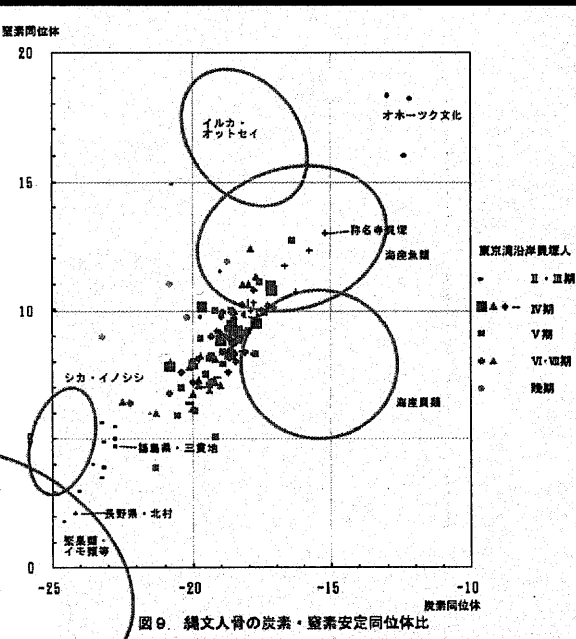
磨石類:堅果類の利用

石鏃:鳥獣類の利用

→ 東京湾東岸最奥部では組成に偏りが無い

・群集貯蔵穴が発達

→ 貯蔵対象は堅果類の可能性が高い



### ③人骨に残る成分(コラーゲン)の分析

・「炭素・窒素安定同位体比による食性分析」

陸産or海産

動物or植物

→ 海産資源と植物資源をバランスよく利用  
(魚貝類に偏らず)

図9. 縄文人骨の炭素・窒素安定同位体比

### (3) ゴミ問題

① 定住型集落のごみ処理

→ ごみ捨て場の形成

② 「3つのR」の実践

→ 遺跡の中から数々の証拠が見つかる

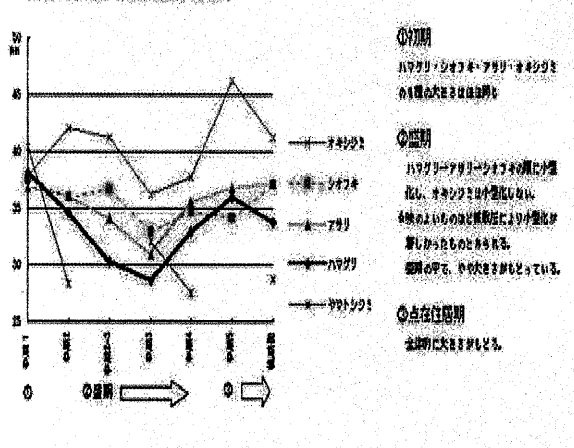
・「Reduce」 → なるべくごみを出さない

・「Reuse」 → 繰り返し何度も使う

・「Recycle」 → 資源として生まれ変わらせる

### (4) 資源の保護・管理と循環

有吉北貝塚二枚貝殻長の変化



① 採集圧による資源  
量減少に対処

→ ハマグリの殻長サイ  
ズの変化

資源量の減少した時期  
には稚貝を海にリリース  
している可能性有り

②有用植物(コナラなどの堅果類・根茎類)の選択的な利用・管理

→ 照葉樹林化(落葉広葉樹林の後退)が他地域に比べ遅れた原因?

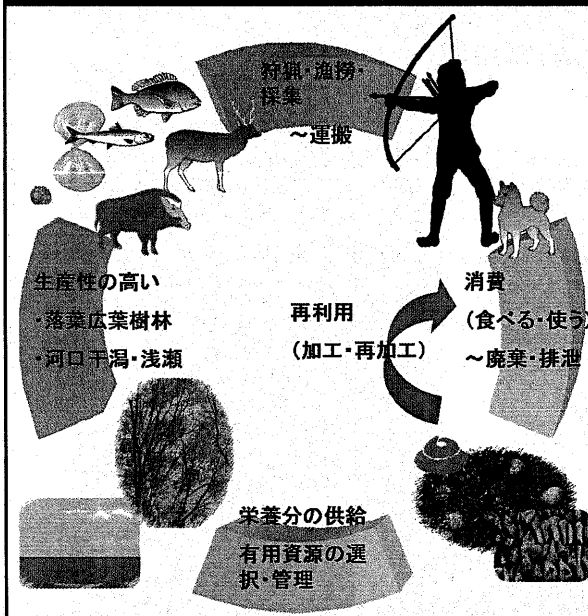
③資源の循環

河口干潟の漁場と落葉広葉樹林

→ ・広大な落葉広葉樹林の下総台地を刻む谷を通じ、河口干潟に栄養分が流れ込む

・定住集落が集中する水系では、流れ込む栄養分の量もかなり多かったと考えられる

・毎年安定して得ることができる貝類や小魚の大発生に関係



4 まとめ

(1) 大集落を支えた海と山

・狩猟採集民としては類のない大集落(大貝塚)の集中が証明するもの

- 東京湾の資源量の豊かさ
- 下総台地の森林の生産性の高さ

(2) 長期継続型・循環型の資源利用

・「集落周辺の資源をいかに利用するか」という部分にもっとも労働力と知恵を投入

- 持続可能な資源利用  
資源と人のよい関係が長く続いた

### (3) 先人のとりくみの実際を知ること

① 狩猟採集民にとってのエコライフ・地産地消・資源保護  
→ 生活していく上で当たり前のこと  
そうでなければ破綻

② 先人が海や山とどのように関わってきたのか、事実を明らかにすること  
→ 今後、わたしたちが海や山とどのように関わっていくのかを考える上で、多くのヒントを与えてくれるはず

考古資料にはそういう意味で説得性・具体性を持つ材料がたくさんある